

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月15日現在

機関番号：33403

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730419

研究課題名（和文） 若年非正規雇用層の階層的多様性についての計量的研究

研究課題名（英文） A sociometric study of the diversity of class origin among young non-regular workers.

## 研究代表者

小林 大祐（KOBAYASHI DAISUKE）

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：40374871

## 研究成果の概要（和文）：

若年非正規雇用層はとかく一括りにして論じられがちであるが、そのなかには階層的に多様な人びとが含まれており、不本意にも非正規雇用の状態にとどまらざるを得ない層において、出身階層上の不利がより影響している可能性がある。本課題研究では、この可能性を、既存の調査データによって検証し査読論文として発表するとともに、より代表性の担保されたサンプルでの再検証のために、ミックス・モードによる実査を行った。このデータの基礎分析では、不本意型非正規雇用は本意型非正規とくらべ「生家の暮らし向きの程度」が不利な状態にある事が確認された。

## 研究成果の概要（英文）：

Young non-regular workers are apt to be regarded as a homogeneous group. However, it is possible that they have diverse class origins and that those who involuntarily engage in non-regular work have lower social origins. In this research, I demonstrated this possibility by the analysis of existing dataset and published two refereed papers. And also, I conducted the survey which is carried out in mixed-mode data collection. The results of the fundamental analysis show that this possibility is plausible.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会階層論

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：若年非正規雇用、社会階層、ミックス・モード

## 1. 研究開始当初の背景

近年、「フリーター」、「偽装請負」「派遣社員の雇い止め」と様々なキーワードで取り上

げられる非正規雇用、特に若年非正規雇用層の問題については、様々な観点から研究蓄積が進んでいる。そんななかでも、若年非正規

雇用となるかどうか、出身階層がどのように影響を与えているか、つまり、世代間社会移動の観点から非正規雇用層を捉えようとする研究についても実証的な研究が数多く発表されている。ただ、質的なアプローチによる研究こそ一致して階層的出自における不利と若年非正規雇用へのなりやすさとの関連を指摘しているが（宮本 2005; 妻木 2005）、量的調査にもとづく研究は、実はそれほど多くはなく、その関連性についての知見も必ずしも一致しているわけではない。出身階層の影響は主に学歴レベルを経由した間接的なものとする研究がある（石田 2005; 小杉 2007）一方で、学歴をコントロールしても出身階層が低いほうが、若年非正規雇用になりやすい傾向を示す研究もある（太郎丸 2006; 樋口 2008; 太郎丸 2009）。

このように計量的研究において出身階層の効果が明確ではない要因として、まず考えられるのは、調査方法上の問題であろう。質問紙調査において若年層の回収率は一般的に他の世代よりも低いことから、特に困難な状態に置かれた層から回収が出来なかった結果、サンプルが偏る可能性があるのである。後述するように、この問題については本課題研究においても、新しい手法を導入することで取り組む。

ただ、本課題研究においてより注目したいのは、非正規雇用層の幅の広さである。すなわち、フリーターをはじめとした非正規雇用に従事している者には幾つかのタイプがあり、そのタイプごとで出身階層に幅があるという可能性である。これが意味するのは、なんらかの基準で非正規雇用層を分類することで、そのサブ・カテゴリと出身階層との関連がより明確に捉えられるという可能性である。実際、小林（2008）はフリーターをしている「理由」に着目し、その違いによって出身階層に差がある可能性を、「2007年社会階層と社会移動若年層インターネット調査（第2回）」を用い示した。また、現在投稿中の論文においては、同様の可能性をより詳細に分析した結果、本人の教育達成をコントロールしても「やむを得ず型フリーター」へのなりやすさには出身階層がマイナスの効果を持っていることを示している。

しかし、これらの研究には難点がある。それはインターネット調査という代表性に留保のつくデータに基づく結果であるということである。若年層における低回収率の結果としての無回答誤差が無視できない現状からすれば、インターネット調査を用いる利点もないわけではないが、調査モニターを用いた場合、カバレッジ誤差すなわち想定母集団とどれぐらい乖離しているのかを見積もることが出来ず、分析結果の一般化には留保がつかざるをえない。したがって、代表性の確

保されたデータにおいて追試されることが必要であるが、既存の大規模調査において、このような問題意識に対応するような質問は用意されていない。このような現状においては、代表性の担保された調査手法によって調査が実施されることが強く求められる。これが本申請の学術的背景である。

## 2. 研究の目的

本課題研究は、若年非正規雇用層を社会階層として捉え、世代間階層移動の観点から論じるものである。その際着目するのは、①若年非正規雇用層が決して階層的に同質ではなく、出身階層における幅を持つ存在であるということ、そして②この幅の広さを考慮せず一括りに若年非正規雇用層を扱うことが、定量的研究において若年非正規雇用層の問題を見えにくくしているということ、という2点である。若年非正規雇用層を幾つかのタイプに分類して、そのそれぞれへの「なりやすさ」と出身階層との関連について計量的手法によってアプローチすることで、従来非正規雇用やフリーターと一括りにされることで、見えにくくなっていた彼（女）らのなかの最困難層の存在を計量的に明らかにすることが本課題研究の目的である。

## 3. 研究の方法

本課題研究は3カ年で進められた。若年非正規雇用層の幅の広さに対して、代表性の担保された手法にもとづく量的調査によってアプローチすることが最大の長であるため、3年間の研究計画についてもこの調査の円滑な遂行を目的として、当初の計画からタイムスケジュールが変更された。

平成22年度は、調査の準備期間として位置づけられ、調査項目選定のための理論的検討および、mixed-modeによる調査を遂行するための、方法論的、技術的検討に費やされた。具体的には、理論的研究として社会階層論や若年非正規雇用層について計量的にアプローチした内外の最新の文献

（Goldthorpe 2007; 太郎丸 2009 など）、そして、方法論的、技術的検討としては、インターネット調査やmixed-modeについて論じた文献（Groves et al. 2009; Dillman et al. 2009）を、また、その応用調査事例についても、内外の事例を幅広く検討することに費やされた。

平成23年度は、当初の計画では実査が予定されていたが、東日本大震災の復興予算の確保のために、当初の補助金額からの減額の可能性が示されたため、調査デザインについて再検討を行う必要が生じた。これをうけて、調査規模の縮小について検討していたとこ

る、減額は行われたいという方針が示された。このため、再度慎重な検討を重ね、当初の規模で実査を行う方針を決定したが、実査体制の見直しに伴いスケジュールが厳しくなったため、実査は平成 24 年度に実施することに変更された。

こうして、平成 25 年度に実査が行われた。実査は、調査会社のマスターサンプル（調査会社で実施した無作為抽出調査の回答者のうち、今後も調査に協力する事を承諾した回答者をストックしたもの）を用いた。これにより、一定程度代表性が確保されたサンプルによる全国調査を実施する事が出来た。

#### 4. 研究成果

平成 22 年度、23 年度は、若年非正規雇用関連及び調査法関連の文献研究を進めながら、本課題研究と同じ問題意識から様々な 2 次データを用いて行ってきた研究の成果発表に重点を置いて活動した。それらが、斎藤友里子・三隅一人編の『現代の階層社会 3 流動化の中の社会意識』に分担執筆した「雇用流動化社会における働き方と階層帰属意識」、『理論と方法』26 巻 2 号に査読論文として掲載された『「フリーター」のタイプと出身階層』、そしてやはり『経済社会学会年報』33 号に査読論文として掲載された「若年非正規雇用層における出身階層の影響に関する一考察」である。

特に『「フリーター」のタイプと出身階層』は、若年層で非正規雇用となるかどうかに対する出身階層の影響を、「フリーターをしている理由」を用いて「フリーター」を分類することで、その違いによって出身階層に差があることを確認するものであり、本研究課題を進める上で重要な知見である。

平成 24 年度には、郵送法とインターネット法によるミックス・モードの「働き方と生活についてのアンケート調査」を実施した。調査対象は全国の 23 歳から 39 歳までの男女 1200 名で、標本抽出枠は先述の通り調査会社が保有するマスターサンプルである。有効回答は 620（回収率 51.7%）であった。なお、ミックス・モードには、並行型と逐次型があるが、先行研究から並行型が回収率に及ぼす影響は少ない事が指摘されていたため、逐次型を採用し、郵送調査の 2 回目の督促時にネットでの回答も許容するという方法をとった。このため web での回答者は 24 ケースにとどまっている。

このデータの分析によって、例えば、不本意型非正規雇用は本意型非正規とくらべ「生家の暮らし向きの程度」が、単純集計レベルでは不利な状態にある事が確認された。今後、より詳細な分析を継続する事で、小林 (2011) の知見を再検証していく計画である。

また、調査モードについての研究成果に関しては、現代社会学事典に社会調査関連を項目執筆を行ったのをはじめとして、日本社会学会での発表、『入門・社会調査法 (第 2 版)』の分担執筆という成果に結びついている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 小林大祐, 「フリーター」のタイプと出身階層, 『理論と方法』, 査読有, 26 巻 2 号, 2011 年, pp. 287-302.
- ② 小林大祐, 若年非正規雇用層における出身階層の影響に関する一考察, 『経済社会学会年報』, 査読有, 33 号, 2011 年, pp. 218-227.

[学会発表] (計 2 件)

- ① 小林大祐, 若年非正規雇用に対する出身階層の効果について:フリーター理由に着目して, 経済社会学会第 46 回大会, 2010 年 9 月, 日本大学商学部 (東京都) .
- ② 小林大祐, 多様に実施される社会調査の比較 (1) : SSP-P2010, SSP-I2010 を用いた意識項目の調査モード間比較, 日本社会学会第 85 回大会, 2012 年 11 月, 札幌学院大学 (北海道) .

[図書] (計 4 件)

- ① 小林大祐, 東京大学出版会, 現代の階層社会 3 : 流動化の中の社会意識, 2011 年, pp95-110 (第 7 章「雇用流動化社会における働き方と階層帰属意識」) .
- ② 前田忠彦・小林大祐, 東京大学出版会, 現代の階層社会 1 : 格差と多様性, 2011, 315-318 (「2005 年 SSM 日本調査の設計と回収状況」) .
- ③ 小林大祐, 弘文堂, 現代社会学事典, 2012, 156, 414, 802, 1000, 1020, 1091, 1197, 1254.
- ④ 小林大祐, 法律文化社, 入門・社会調査法 (第 2 版) : 2 ステップで基礎から学ぶ, 2013, 62-78 (第 5 章「実査の方法: どのような方法を選べば良いのか?」),

147-161 (第 10 章「データの基礎的集計：  
たくさんの情報を要約する」)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 大祐 (KOBAYASHI DAISUKE)

仁愛大学・人間学部・准教授

研究者番号：40374871